

挨拶

会長 二宮修二

近年、挾間史談会では、郷土挾間の中世を支配した狹間氏について多くの研究報告が出され活発に論議してまいりました。本当に有意義であったと思います。

又歴史を実地に検証するために、日出・杵築の見学や佐伯にも出向いて、佐伯の新築なった歴史資料館や前からある平和記念資料館の見学も致しました。佐伯城跡周辺の歴史と文学の道に訪れ、歴史・文学の雰囲気味わうことも出来ました。

皆さんとともに顔を見合わせ歴史を語ることは楽しいことだとあらためて思っています。

最近、「大友宗麟」をもっと見直し、その偉大さを理解してもらおうとする多くの方やグループの動きが出ています。殊に、「大友遺跡・万寿寺跡」が国指定の重要文化財に指定されてからは、その動きが顕著であります。その事は、キリスト教という当時では新しい西洋文化を持った宗教と新しい品物をもたらした貿易の様子を知ることが、西洋文化の花開いた豊後の国を想起する上で、大切な事柄であると思います。この大友氏・南蛮貿易・キリスト教をよりはっきりすることで、当時のことが理解できると考えられ、活動が活発になっています。

大分駅前到大友宗麟公とフランシスコ・ザビエル師を配置し、豊後が載った世界地図を示した所に関係者の当時を理解し、豊後が日本でも文化の進んだ国であったときのおもいがあり、再びあの華やかな文化を取り戻したいとあこがれる人々が多いと思います。

由布市から首藤市長も他市町長と共に、歴史フォーラムに出席し、一層当時のことを研究し、市の発展につなげて行こうとしています。

由布市挾間町にも、多数のキリシタン墓があり、湯布院には多くの名の知られた墓地があります。それらを早急に史談会会員の皆さんも、知る必要があると思っているところです。

今後も一層の地道な、調査・研究をお願いします。